



50年のあゆみ



50年のあゆみ

社会福祉法人 群馬県社会福祉事業団

創立50周年を迎えて

50th
Anniversary

創立50周年に想うこと ～私たちは未来を見つめ「新たな価値と感動」を創造します～



群馬県社会福祉事業団

理事長 武藤 幸夫

群馬県社会福祉事業団は創立50周年を迎えました。県・市町村行政の皆様や利用者の皆様をはじめ今日まで事業団を支えてくださったすべての皆様に、この場をお借りして感謝を申し上げます。

少子高齢化の進行や新型コロナウイルス感染症の流行、光熱費をはじめとする物価高騰等、厳しい経営環境ではありますが、職員一同力を合わせ、事業団は「100年企業」を目指して参ります。

100年企業に共通しているのは、1つには顧客から信頼されていること、2つに職員が生き生きと働いていること、3つに地域からも信頼されていることです。そして各々の企業は、単に伝統にしがみついているだけでなく、その時代その時代に相応しく形を変えてきたことです。

私たち群馬県社会福祉事業団も、事業団らしい、質の高いサービスを維持しつつ、新たな仕組みづくりやサービス提供に挑戦して行かなければなりません。簡単なことではないし、厳しいことが多々待っているでしょう。しかし、それは楽しいこと、嬉しいことだと思っています。なぜなら、私たちの努力が利用者や地域の皆様の喜びに変わり、感謝の言葉になり、そして私たち自身の生活の向上にもつながるからです。

現状に甘んずることなく、常に改善、改革を求め、PDCAサイクルを回して行く先に「新たな価値と感動」は生まれ、50年後も事業団は群馬県の宝物として存続しているものと信じています。

そのためにも、

変えられないものを静穏に受け入れる力

変えるべきものを変える勇氣

そして、変えられないものと変えるべきものを区別する智恵を、持ちたいと思っています。

私たちは未来を見つめ「新たな価値と感動」を創造します。

追記 今回、50周年記念誌を発行するに当たり、新たな取り組みとして、多くの企業・団体様の広告を掲載させていただきました。(巻末のページを是非ご覧ください。)群馬県社会福祉事業団50年の活動は、こうした沢山の企業や団体様の支えがあったからこそだと思っています。今後も、皆様とより良い関係を築き、連携し、更なる高みを目指して参ります。

創立 50 周年に寄せて



群馬県

知事 山本 一太

社会福祉法人群馬県社会福祉事業団が創立50周年を迎えられ、ここに記念誌を発行されますことを、心からお祝い申し上げます。

群馬県社会福祉事業団は、昭和47年6月、県が設置する社会福祉施設の運営などを行う社会福祉法人として設立されました。これまで運営を担ってきた事業は、介護保険サービスや障害福祉サービスでの入所型施設や在宅生活を支援する事業所のほか、視聴覚障害者向け情報提供施設、身体障害者向け補装具製作施設、障害者や高齢者の方々のスポーツ・レクリエーション施設など多岐に及んでおります。

福祉のニーズが多様化し、それぞれの施設に期待される役割も大きく変化する中、群馬県社会福祉事業団は50年もの長きにわたり、地域福祉の担い手として御尽力され、その役割を果たしてこられました。これもひとえに、歴代の役員・職員の皆様の御努力によるものと、心から感謝と敬意を表します。

さて、地域福祉に目を向けますと、地域社会が単身世帯の増加など家族の在り方の変化や少子高齢化の進行による人口減少に直面する中、個人や世帯の抱える課題は複雑化・複合化しており、制度・分野ごとの縦割りや、支え手・受け手という関係を超えた取組が求められています。

こうした中、県では、新・群馬県総合計画において、2040年の目指す姿の一つとして、「県民総活躍社会の実現」を掲げています。これは、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、多様な県民がそれぞれの場面で役割を担い、活躍することにより、活力にあふれた地域となっていることを目指すものであります。県といたしましては、その基礎をつくるべく、様々な環境整備に取り組んで参りますが、その実現には、地域福祉の担い手となる方々の御協力が不可欠です。

群馬県社会福祉事業団の皆様におかれましても、これまでの幅広い事業運営を通して培った知見を活かし、地域福祉を牽引する存在として、引き続き、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県社会福祉事業団の益々の御発展と役員・職員の皆様方の御健勝を祈念申し上げ、創立50周年に寄せる言葉といたします。

未来志向の法人経営を



群馬県社会福祉事業団

前理事長 塚越 日出夫

(平成29年6月19日～令和4年6月29日)

群馬県社会福祉事業団が設立50周年を迎えられたことを心からお祝いを申し上げます。

そして、平成29年6月から5年間、理事長として法人運営に携わり、またそれ以前にも群馬県職員として事業団の運営に関わりを持った立場として、非常に感慨深いものがあります。

事業団の歴史を振り返ると、県立の福祉施設を効率的に管理運営する目的で昭和47年6月に設立され、特別養護老人ホーム、障害者リハビリテーションセンター、点字図書館などの施設を受託運営してきました。

しかし、その後の高齢化の急速な進展や民間活力の導入促進などに伴う社会福祉基礎構造改革の推進、さらには県の行政改革に伴う外郭団体の見直しや指定管理者制度の導入など、社会経済状況の変化に大きく影響を受けてきましたが、このような変化にも的確に対応しながら現在に至っています。

このような中、事業団は幅広い福祉事業を展開するとともに、指定管理施設と自主運営施設の2つの経営手法の異なる施設を多数運営するという経営上の難しさを持っています。それに加え、県から譲渡を受けた特別養護老人ホームの老朽化が進み、施設の建て替えのための財源確保が課題になっていることから、事業団が今後も持続可能な安定した経営基盤を確立するとともに、職員が一丸となって福祉サービスの向上を目指す道標として、令和2年3月に中長期計画「未来創造クローバープラン」を策定いたしました。

長期的な観点からの未来志向による法人経営を目指すものであり、計画の着実な推進を期待しているところです。

昨今、社会福祉法人の意義が問われる時代にもなっていますが、これまでの事業団の歴史を踏まえると、事業団に求められるものとして、「高い公益性」と「県内の社会福祉法人のリーダー」としての役割は、今後も一貫して続いていくものと思います。

事業団は、これまでも状況の変化に対応し、自らの道を切り拓いてきました。そして、これまでの50年の間に培ってきた様々なノウハウがあります。また、福祉分野における幅広い人材を有しています。これからも、それらを十分に活かし県民の期待に応えていただきたいと思います。

今後も、少子高齢化がさらに進展し、福祉や介護分野におけるさらなる変革が予想されるなど、厳しい経営環境が続くと思いますが、事業団の益々の発展と職員の皆様のご活躍を期待しています。

基本理念

わたしたちは未来を見つめ「新たな価値と感動」を創ります



【利用者からの信頼を得るために】

- ・利用者目線、利用者本位のサービスの提供
- ・高い専門性と確実な技術の習得



【地域からの信頼を得るために】

- ・地域ニーズの把握と専門的ノウハウの活用
- ・地域共生社会実現に向けた取組

【先駆性を発揮するために】

- ・事業団職員としての自覚とプライドの保持
- ・広い視野とチャレンジ精神の開拓



【健全な経営に寄与するために】

- ・効率的な業務の推進とコスト意識の強化
- ・コンプライアンスの徹底



目次

創立50周年を迎えて

創立50周年に想うこと	群馬県社会福祉事業団理事長	武藤幸夫
創立50周年に寄せて	群馬県知事	山本一太
未来志向の法人経営を	群馬県社会福祉事業団前理事長	塚越日出夫

第1章 群馬県社会福祉事業団50年のあゆみ

年表	2
----	---

第2章 施設のあゆみ (平成25年4月1日以降)

1. 研修指導センター	5
2. 特別養護老人ホーム高風園	8
3. 特別養護老人ホーム高風園「そめやの里」	12
4. 特別養護老人ホーム明風園	16
5. 特別養護老人ホーム菱風園	20
6. 群馬県立障害者リハビリテーションセンター	24
7. 障がい者支援センターまるべりー	30
8. 館林市障がい者総合支援センター	34
9. 群馬県立点字図書館	38
10. 群馬県立義肢製作所	42
11. 群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ	46
12. 群馬県立ふれあいスポーツプラザ	50
13. 群馬県立ゆうあいピック記念温水プール	54
14. 群馬県社会福祉総合センター	58

第3章 資料

1. 設立趣意書	62
2. 歴代理事長名簿	62
3. 役員・施設長名簿	63
4. 沿革	67

第1章 群馬県社会福祉事業団50年のあゆみ

年表



まるべりー（グループホーム）運営開始



埼玉県社会福祉事業団と災害発生時相互応援協定締結



まるべりー（グループホーム）開所式



社会福祉総合センター 20周年記念事業

	1972~2012	2013	2014	2015	2016
年月	昭和47年~平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・事業団設立 (S47) ・経営改革ビジョン策定 (H16) ・高風園、菱風園県より移譲 (H17) ・7つの指定管理施設を受託 (H18) ・そめやの里開設 (H20) ・明風園、県より移譲 (H22) ・リハビリセンター内に地域生活支援室設置 (H24) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業団経営ビジョンの改正 	<ul style="list-style-type: none"> ・館林センターを受託 ・諏訪リサーチから事業継承し、相談支援事業所つぼみを開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤怠、給与システムを法人一元化 ・まるべりー運営開始、地域支援室をまるべりー拠点内に移転し、相談事業所に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパス表の制定
他法人・市町村との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県社会福祉事業団と災害発生時相互応援協定締結 (H24) ・北関東三県事業団と災害発生時相互応援協定締結 (H24) ・桐生市と福祉避難所協定締結 (菱風園) 		<ul style="list-style-type: none"> ・前橋市と福祉避難所協定締結 (明風園) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高崎市及び桐生市から包括支援センターを受託 ・館林市と福祉避難所協定締結 (館林センター) 	
施設整備		<ul style="list-style-type: none"> まるべりー（共同生活援助）建設工事 ふれあいプラザ 陸上競技場大規模修繕 リハビリセンター 新棟建設及び旧棟改修工事 			
改正制度	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度の導入 (H18) ・社会福祉法人会計基準改正 (H23) ・処遇改善加算開始 (H24) 				<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法改正 ・社会福祉法人会計基準改正
主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュンヘン五輪、札幌五輪 (S47) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日銀が金融緩和を開始 ・富士山世界文化遺産登録 	<ul style="list-style-type: none"> ・小惑星探査機「はやぶさ2」打ち上げ ・ソチオリンピック開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・富岡製糸場世界文化遺産登録 ・安全保障関連法案が可決 	<ul style="list-style-type: none"> ・リオ五輪開催 ・北海道新幹線が開業



リハビリセンター新棟完成



リハビリセンター新棟完成記念式典



唐澤選手（点字図書館）東京パラリンピック出場
銀メダル獲得（陸上5000m）

2017	2018	2019	2020	2021	2022
平成29年	平成30年	平成31年(令和元年)	令和2年	令和3年	令和4年
<ul style="list-style-type: none"> 会計監査人の設置 リハビリセンター新棟運用開始 定款全部改正 	<ul style="list-style-type: none"> リハビリセンター就労支援部廃止 まるペリー拠点内に法人立就労支援事業所めーぶるを開設 社会福祉総合センター20周年記念事業開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献推進ビジョンを策定 外国人技能実習生の受入開始 リハビリセンター北棟運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> 法人中長期計画(未来創造クローバープラン)、SDGs推進計画を策定 	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢崎市障害者基幹相談支援センターに職員派遣 相談支援事業所に「親なきあと相談室」の設置 ふれあいプラザ30周年記念事業開催 キャリアパス表の改訂 	<ul style="list-style-type: none"> まるペリー基幹内事業所を設置
<ul style="list-style-type: none"> DWATに登録 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県社会福祉事業団と災害発生時相互応援協定締結 	<ul style="list-style-type: none"> 高崎市と福祉避難所協定締結(高風園) 			
めーぶる就労継続支援B型他建設工事		明風園空調設備工事			
		<ul style="list-style-type: none"> 特定処遇改善加算開始 			<ul style="list-style-type: none"> R4. 2月～処遇改善支援補助金開始 10月～ベースアップ加算開始
<ul style="list-style-type: none"> トランプ米大統領初訪日 	<ul style="list-style-type: none"> 平昌オリンピック 天皇皇后両陛下による、与那国島訪問 	<ul style="list-style-type: none"> 天皇陛下ご即位、「令和」に改元 消費税10%に引き上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症流行 東京オリンピック延期 	<ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピック、パラリンピック開催 唐澤選手、東京パラリンピック出場(銀メダル) 	<ul style="list-style-type: none"> 北京オリンピック開催 ロシア、ウクライナ侵攻

● 施設一覧表(地図)



1 研修指導センター

(略称：研修センター)



(1) 施設長からのコメント



所長
吉沢京子

50周年という歴史を有する法人に所属しているその重みと、これまで支えてくださった関係者の皆様、利用者様とご家族、職員一人ひとりに感謝の念



を感じています。50年の歴史の中で、どれだけ多くの笑顔が輝いたことでしょうか。時には涙し苦悩した日々もあったと思います。利用者様の生活の一部、あるいは生活そのものが、私たち職員の遣り甲斐となり、時間を紡いできたことは間違いありません。歴史を繋いでくださり、本当にありがとうございました。

さて、当研修指導センターは平成22年本部内に研修グループとして産声をあげ、平成23年には特養明風園内に研修指導センターとして移転し、現在に至っております。この間に県から高齢者ケア専門研修、認知症介護実践研修等が段階的に委託され、平成27年には県直営であった高齢者介護研修が全面委託となり、現在年間延べ35研修を開催しています。法人内研修としては、キャリアパスに連動した階層別研修、育成課題に応じた目的別研修を実施し、独自事業として介護職員初任者研修も行っています。日々、講師や受講者の方々からの学びも多く、それを活かして質の高い研修環境が提供できるよう職員8名が一丸となって研修と向き合っております。

当センターもコロナ禍の影響は大きく、受講者数は激減している現状です。『止まない雨はない』という言葉信じ、今後も県内の介護力向上を目指して時代に即した学びの場づくりに努めてまいります。

(2) 施設概要

■ 所在地

〒371-0004 前橋市亀泉町1-26 (特別養護老人ホーム 明風園内)
TEL : 027-269-7780 FAX : 027-264-3522

① 運営方針

研修運営を通して県内及び法人内の介護人材の育成を図り、福祉サービスの質の向上を目指します。

② 事業内容

1. 法人内各種研修の企画・運営

(1) 階層別研修

キャリアパスに連動した研修を実施し、階層ごとの職務遂行に必要な知識の習得と意識を涵養し、次世代を担う人材を育成します。

例) 新規採用職員研修 (採用時)、中堅職員研修 (在職中)、
主任研修①② (昇任時、採用4年目から)、サブリーダー等研修 (昇任時) 等

(2) 目的別研修

法人内の横断的な業務や今後の事業展開に不可欠となる業務等に即した知識や技術を習得することにより、サービスの質の向上を目指します。

例) 採用3年目研修、認知症ケア研修、マネジメント研修、実践報告・実務研究助成事業等

(3) 講師経験による人材育成

各所属の介護職員が介護職員初任者研修の講師を務めることで、介護福祉士としての知識・技術・態度をブラッシュアップし、伝達力や指導力を養います。

2. 群馬県から委託された各種研修の運営

- (1) ぐんま認定介護福祉士養成研修
- (2) 認知症介護等研修
- (3) 高齢者ケア専門研修
- (4) 認知症介護フォローアップ研修
- (5) 略痰吸引等指導者講習
- (6) 権利擁護推進員養成研修

3. 介護職員初任者研修養成課程の企画及び実施

③ 組織体制図 (令和4年4月1日現在)

所長 (1) — 研修指導課 (7)

研修は、表には出ない、見えない部分での準備と多くの人の支えにより運営されています。まさに“人材は人財”。受講者の学びを支えるために、私たちも日々共に学び、成長を続ける自分でいたいものです。

研修指導課 事務員 野口 有香

(3) 研修風景

【認知症系研修開講式の様子】



【介護職員初任者研修 研修風景】



♪コロナ禍により感染症対策を実施、準備も万全♪

【検温風景】



【会場風景】



飛沫防止パーテーション、見えますか？

【オンライン研修 (Zoom)】



2 特別養護老人ホーム高風園

(略称：高風園)



(1) 施設長からのコメント



園長
中澤 貞治

群馬県社会福祉事業団は昭和47年の設立から50周年を迎えることができました。

平成に入り福祉を取り巻く状況もめまぐるしく変化し、国においては平成12年に介護保険法、平成24年には障害者総合支援法が施行され、現在は地域共生社会実現を目指し、様々な取り組みが進められています。

このような状況下においてここ10年の事業団をみると、前半は社会福祉法人改革に取り組み、後半は誰も予期していなかったコロナ禍における対応と職員全員で「チーム事業団」として乗り越えて来ています。

一方、わたくしが勤務する高風園も事業団と同じく今年で50周年となります。建物の老朽化が進み修繕費用等が増え、大変な状況ではありますが、利用者の安心安全な生活環境を維持するため、日々職員からの意見を聞きながら施設運営を行っています。また、コロナ禍のため園内にコロナを持ち込ませないように職員と一丸となって対応しています。幸いにも現時点では利用者がコロナに罹患することなく運営できていることに対して職員に感謝したいと思います。

今後は、一刻も早いコロナ禍の終息を願うとともに事業団が更に県内の福祉をリードする法人になるように努めていきたいと思っています。これからも事業団に対するご理解ご支援をよろしくお願いします。



(2) 施設概要

■ 所在地

〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町2412番地
TEL：027-322-7802 FAX：027-322-7493

① 運営方針

利用者一人ひとりの人権の尊重を基本理念とし、利用者本位のサービスの充実と、高齢者がその住みなれた地域で、安心して自立生活を送るための総合的な福祉サービス提供施設を目指します。

② 事業内容

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	定員80名
短期入所生活介護（ショートステイ）	定員 8名
地域密着型通所介護（デイサービス）	定員18名
居宅介護支援事業	
地域包括支援センター（高崎市委託事業）	

③ 組織体制図（令和4年4月1日現在）

園長（1） 副園長（1）

- 管理グループ（事務・栄養）（9）
- 生活支援グループ（医務・介護）（46）
- 地域支援グループ（デイサービス・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター）（14）

④ 土地建物の状況

土地 71,101㎡
建物 鉄筋コンクリート造2階建（延床面積4,109.25㎡）

入職して14年という時間が瞬く間に過ぎ、私にとって高風園はまるで“竜宮城”のようです。その間、利用者の方々には、自分が経験し得ないことや人生の智慧を教示して頂き、一つ一つが心の宝物となっています。

この先も出会いを大切に、みなさんが「高風園でよかったな。」と心から思って暮らせるよう創意工夫を重ね、頂いた宝の恩返しをしていきたいと思っております。

生活支援グループ 看護師 久林 道代

(3) 年間主要行事

4月…お花見

園内の桜を見ながら、
甘酒やおやつを楽しみます

5月…外出支援

車で近隣の公園へ出掛け、
菜の花やネモフィラ観賞をします



8月…流しそうめん

竹を使った本格的な流しそうめん
を楽しみます

10月…秋祭り

毎年開催し、地域の皆様やご家族
と楽しいひと時を過ごします

11月…お寿司バイキング

調理員が目の前で握ったお寿司を召し
上がっていただきます

12月…クリスマス会

職員の出し物やケーキと一緒に楽
しいひと時を過ごします

1月…餅つき

つきたてのお餅を召し上がって
いただきます

2月…節分

鬼に扮した職員に
元気よく豆をまきます



(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕



平成25年度

公益財団法人JKA「福祉機器の整備補助事業」を活用し、特殊浴槽1台を整備しました。

平成27年度

高崎市より地域包括支援センター事業を受託し、【高齢者あんしんセンター高風園】を開設しました。

地域に暮らす高齢者やその家族の総合相談窓口としての役割を担っています。



令和元年度・令和2年度

男性ご利用者が108歳を迎え、県内男性最高齢となりました。県知事や市長をお迎えしてお祝いをしました。

3 特別養護老人ホーム高風園「そめやの里」

(略称：そめやの里)



(1) 施設長からのコメント



園長
森 平 宏

当施設は、平成20年11月1日に開設しました。周囲は田園に囲まれた静かな環境の中にあり、中庭を取り囲んだ「口の字」型の施設配置のため、各居室や日中過ごす共同生活室は、採光に配慮した明るい空間が広がっています。

施設の特徴として、家庭的な雰囲気づくりときめ細かな介護を行うユニットと、従来からの多床室を併せ持ち、さらに、地域住民の方々が気軽に立ち寄ることのできる憩いの場として、多目的の地域交流スペースを設けており、この交流スペースが地域住民の方々と特養利用者の皆様との交流・交歓の場となり、地域福祉の拠点として利用できるよう整備しています。

施設内の地域交流スペースや中庭を使って、施設開設以来、地域の方々やボランティアの方々による交流が活発に行われてきました。しかし、令和2年3月以降、本県でも新型コロナウイルス感染症の感染が広まってくるに伴い、施設内利用者の感染防止の観点から、これまで年間を通して活発に行われてきた地域の方々との交流行事を中止せざるを得ない状況が続いていることは残念でなりません。

今後のコロナ感染の終息を願うとともに、以前のように地域の方々のご協力をいただきながら、地域の中で親しまれ、ご満足いただける施設を目指していきたいと考えています。



(2) 施設概要

■ 所在地

〒370-0018 高崎市新保町993番地

TEL：027-364-1601 FAX：027-364-1602

①運営方針

- ・施設の安全性に気を配り、安心とやすらぎのある生活を支援します。
- ・一人ひとりの声を大切にして、支援します。
- ・一人ひとりの人格を尊重し、その人にあったサービスを展開していきます。
- ・地域の方々との交流を積極的にすすめ、地域に永く必要とされる施設を目指します。
- ・職員一人ひとりが施設の顔であることを自覚し、専門性の向上に努めます。

②事業内容

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

地域密着型（ユニット型個室） 定員20名

従来型多床室 定員34名

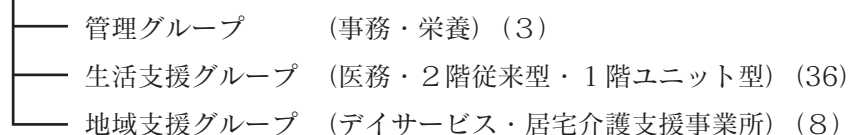
短期入所生活介護（ショートステイ） 定員6名

地域密着型通所介護（デイサービス） 定員10名

居宅介護支援事業

③組織体制図（令和4年4月1日現在）

園長（1）



④土地建物の状況

土地 4,589㎡

建物 鉄筋コンクリート造2階建（延床面積3,558.92㎡）

そめやの里は、遠くに赤城山、榛名山、浅間山を望むことができ、近くに目をやれば、田んぼの景色が広がる、10年前も今も癒やされる風景の中にあります。

10年間を振り返ると、平成26年2月の記録的な大雪や、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の発生が大きな事件と言えますが、特に新型コロナウイルス感染症がなければ、これまでどおりの施設内での活気ある夏祭りや運動会、また、地元のいきいきサロンなどを通して、地域の方々との交流ができ、ご家族も自由に面会ができ、施設内は賑やかな人の行き来があったことと思います。

いつ終息するかわからない新型コロナウイルス感染症ですが、これに負けずに、職員一同がんばっていき
たいと思います。 そめやの里 職員一同

(3) 年間主要行事

4月…お花見

5月…端午の節句

(五月人形、こいのぼり飾り)

6月…大運動会 (保育園児との交流)

7月…七夕祭り

8月…納涼祭



9月…敬老祝賀会

10月…十五夜お団子作り

11月…(デイ)地区文化祭出品

12月 クリスマス会



1月 餅つき大会

2月 節分豆まき

3月 桃の節句

(ひな人形飾り)



(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕

■RUN伴^{とも}+ぐんま「認知症になっても安心して てくらせるぐんまへ」(平成29年10月20日)

認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながら、一つのタスキをつなぎゴールを目指すイベント「RUN伴」に参加しました。



■10周年記念祭(平成30年11月10日)

施設開設10周年を記念し、津軽三味線演奏やフラダンスなどの催しを行いました。



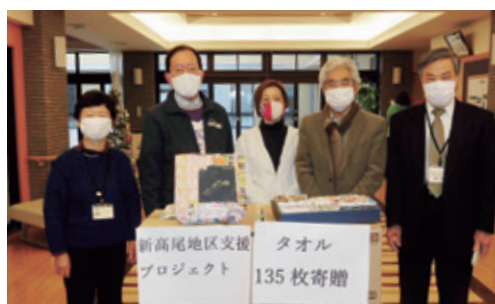
■中庭整備(平成30年6月)

様々な行事スペースとして活用できるよう、レンガ敷きで整備しました。



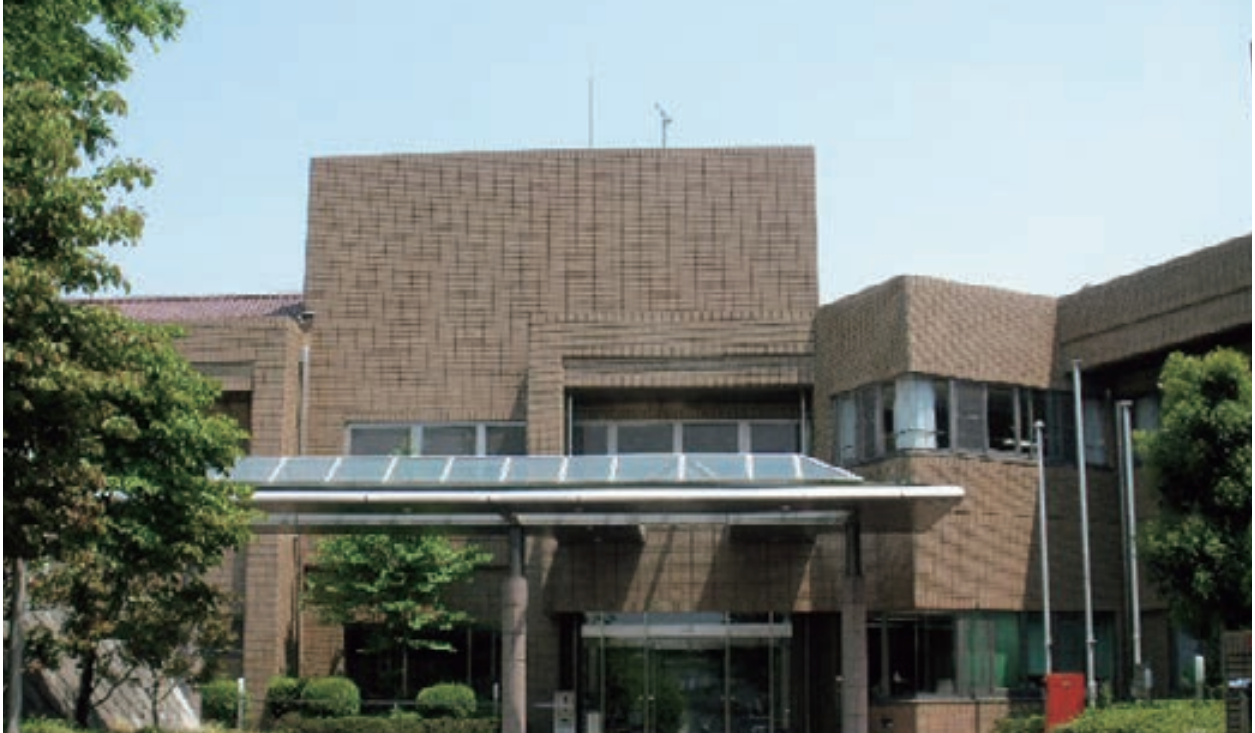
■新高尾地区支援プロジェクト(令和2年12月22日)

地元の新高尾地区の福祉関係の皆さんから、たくさんのタオルを寄贈していただきました。



4 特別養護老人ホーム明風園

(略称：明風園)



(1) 施設長からのコメント



園長
荒木重利

明風園は、昭和41年4月に開設した群馬県内で最初の特別養護老人ホームです。開設以来、群馬県が直接管理する県立の施設として長年にわたり運営されてきましたが、群馬県からの移譲を受けて、平成22年4月から群馬県社会福祉事業団が運営しています。

明風園の特徴の一つとして、聴覚障害者専用床を5床設けている点です。平成23年度から設置しており、聴覚障害を持った職員や手話のできる職員を配置するなどにより、きめ細やかな介護と利用者の立場に立ったケアを進めています。

地域貢献の推進では、自治会をはじめとする地域の方々の行事参加や交流等を通して連携と協力を進めています。平成27年7月には、地域住民のための交流スペースとしていくため「サロンぼるか」を立ち上げ、ボランティアの皆さんにも協力していただきながら、気軽に参加できるミニ講座や体験教室等を開催するなど、地域に根ざした活動に積極的に取り組んでいます。

また、研修指導センターが同じ敷地内に併設されていることから、実践的な現場での研修や講師派遣などの面で支援と協力を図り、お互いの特徴を活かしながら先駆的な取組や効果的な運営を推進しています。



(2) 施設概要

■ 所在地

〒371-0004 前橋市亀泉町1-26

TEL: 027-269-4380 FAX: 027-269-4389

① 運営方針

笑顔を大切に、利用者の皆さまと共に生き生きと歩む。

できることを活かせば人が見えてくる、個別のケアが見えてくる。

「介護といえば明風園」地域に根差して、地域に応える。

小さな見直しがやがて大きな改善に、チームとして次の工夫を惜しまないケアを目指す。プロとして、新しい介護に向かって自分を研く。

② 事業内容

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 定員80名

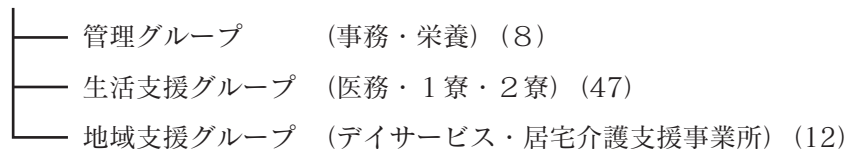
短期入所生活介護（ショートステイ） 定員10名

地域密着型通所介護（デイサービス） 定員18名

居宅介護支援事業

③ 組織体制図（令和4年4月1日現在）

園長（1） 副園長（1）



④ 土地建物の状況

土地 16,493.24㎡

建物 鉄筋コンクリート造2階建（一部1階建）（延床面積6,196.23㎡）

明風園は、地域に支えられている施設です。特に毎年恒例の納涼祭は、地域の皆様と過ごす楽しいひと時でした。その後猛暑対策で秋祭りに変更し、新型コロナウイルスの感染拡大で中止。多くの制限の中で過ごす日々です。

そんな中、毎年春には40周年の際植樹した枝垂桜が見事に咲き誇り、居室からお花見を楽しむことができます。明風園の居室には大きな掃き出し窓があり、そこから望む景色は遠くまで見渡せ、開放的な気分になります。

新型コロナ感染拡大が終息し、また賑やかな日々が戻る日を楽しみにしています。

明風園 職員一同

(3) 年間主要行事

4月…お花見

事業団40周年時に植樹した枝垂桜が満開となり、毎年利用者様に喜んでいただいています。

写真は2階から見下ろしていますが、中庭に出て下から見上げる桜も綺麗です。



7月…流しそうめん

本物の竹を使用した流しそうめんは、毎年好評です。普段、食べることに興味がなさそうな方も、自ら手を伸ばしてたくさん食べています。

9月…秋祭り

恒例だった納涼祭を猛暑対策で秋祭りに変更。秋祭りも新型コロナウイルス感染拡大で中止しています。その代わりに園内で縁日を開催。射的やヨーヨー釣り、焼きまんじゅうを楽しんでいます。



12月…もちつき大会

杵と臼で餅をつきます。利用者の方も一緒に「よいしょ!!!」の掛け声でついた餅はとても美味しいです。

2月…節分

節分の日、鬼に扮装した職員が場を盛り上げました。豆の代わりに、新聞紙を丸めて鬼退治です。皆さん、力強く投げてくれます。

(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕



平成27年

県の依頼を受け、介護ロボットの実証実験を行いました。
装着型ロボット（マッスルスーツやHAL）や離床センサー、尿吸引ロボ、リクライニング機能付き車椅子などです。

令和3年

事業団では初の女性外国人技能実習生を受け入れました。
慣れない土地での就業は、大変なことの連続と思いますが、いつも笑顔で対応してくれています。



令和4年

数年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の流行は、現在でも猛威を振るい、私たちの生活に大きな影響を与えています。その中でも、利用者の皆様に少しでも楽しく過ごしていただけるよう、職員一同感染症対策を行いながら精一杯取り組んでいます。

5 特別養護老人ホーム菱風園

(略称：菱風園)



(1) 施設長からのコメント



園長
大澤 秀之

新型コロナウイルス感染症禍で迎えた本年、いわゆる46通知に基づき昭和47年6月に産声をあげた群馬県社会福祉事業団も50周年を迎えることができました。

これもひとえにご利用者・ご家族を始めとする関係各位のみなさまのおかげであることはもとより、長い歴史の中、数々の課題に悩みながら足掻きながらも弛まぬ努力と福祉に対する淀みない心で、日々を積み重ねてきた多くの役職員の力によることは間違いなく、今日を築いていただいた先達のみなさまには感謝申し上げます。

50年（才）は孔子言うところの「五十而知天命（五十歳になってはじめて、天から与えられた自分の使命を悟るようになる）」の年。昨年12月、思わぬお便りが寄せられました。くしくも昨年は、東日本大震災発生から10年の年。震災直後の私たちも混乱するなか職員を応援派遣した罹災県の福祉施設からのお礼状でした。10年の時を経ても今もなお忘れずにいてくれる。「自分（事業団）の使命」は「いつでも、誰かに、何かに、寄り添う気持ちを持ち続ける」ことなのかなと思います。

さて、100周年を迎えている未来の皆さん。今を生きる私たちは何を残せていますか？ここからの50年、その1歩を始めます。素敵な仲間とともに！



(2) 施設概要

■ 所在地

特別養護老人ホーム菱風園

〒376-0001 桐生市菱町1丁目3016-1 TEL:0277-43-9972 FAX:0277-47-4676

TEL:0277-32-3321 (地域包括センター)

地域ケアステーション菱風園 (デイサービス・ヘルパーステーション)

〒376-0007 桐生市浜松町1-3-3 TEL:0277-20-7184 FAX:0277-20-7210

TEL:0277-46-7109 (居宅介護事業所)

TEL:0277-46-7108 (相談事業所つぼみ)

① 運営方針

契約者の人格を尊重し、生活の質の向上を第一に、自己決定に基づく自立支援を通し、満足できるサービスを提供します。契約者の意見を反映し、契約者とともに施設を運営していきます。地域の社会福祉資源として、多くの県民の皆様が交流できる場を提供するとともに情報提供を積極的に進め、開かれた施設を目指します。また、介護技術、施設整備、運営等において専門性を高め、質の高いサービス提供を目指します。

② 事業内容

介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 定員120名

短期入所生活介護 (ショートステイ) 定員8名 地域密着型通所介護 (デイサービス) 定員15名

地域包括支援センター (桐生市より受託) 居宅介護支援 訪問看護 (ホームヘルパー)

障害者相談支援

③ 組織体制図 (令和4年4月1日現在)

園長 (1) 副園長 (1)

├── 管理グループ (事務・栄養調理) (16)

├── 生活支援グループ (医務・喜寿棟・萬寿棟・福寿棟) (66)

└── 地域支援グループ (デイサービス・ヘルパー・居宅介護事業所・相談支援事業所つぼみ・地域包括支援センター) (28)

④ 土地建物の状況

土地 特養 14,934.6㎡ 地域ケアステーション 726.55㎡

建物 特養 鉄筋コンクリート造平屋建、一部地下一階建 (延床面積4,065.68㎡)

地域ケアステーション菱風園 木造鉄板葺2階建 (延床面積158.79㎡)

菱風園は利用者様も職員も明るく元気で、個性豊かな方ばかりです。菱風園に勤務して十数年、異動当初は戸惑うことも多くありましたが今ではすっかり桐生の雰囲気に馴染んでいます。仕事は大変なことも多く自分一人では乗り切れないこともあります。同僚の皆さんに助けていただきながら毎日楽しく働くことができています。

生活支援グループ 生活相談員 神村 祥子

10年を振り返ると、通所ならではの利用者様の移り変わりを感じます。今後も移り変わりのある中で、一日一日を大切に、利用者様に心地よい日常を提供できるよう努めていきたいと思っております。

地域デイサービス 看護師 坂本 智恵

(3) 年間主要行事

4月…お花見

4月は桜が満開となり、花見を行います。



7月…納涼祭

毎年開催し、地域の皆様、ご家族様とお祭りを盛り上げ、楽しい一時を過ごします。



10月…運動会

デイサービス利用者様も含めて行います。足利にある保育園児の訪問にてお遊戯など披露してくれ、玉入れも一緒にいき、大変盛り上がりします。



12月…餅つき大会

デイサービスの利用者様も含めて行います。「よいしょ！よいしょ！」掛け声をかけてついたお餅は軟らかく好評です。



2月…節分の日（デイサービス）

職員が鬼になりすまし、楽しくパフォーマンスします。「鬼は～そと！福は～うち！」と賑やかなひと時となりました。

(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕

2つの論文が全国社会福祉事業団大会にて優秀賞を頂くことは、快挙な事でした。



平成29年

第51回 全国社会福祉事業団大会にて管理グループ栄養調理の取り組み
「笑顔と生きる喜びに繋げる食事サービス」の実務研究論文が優秀賞を頂き、発表させていただきました。



令和元年

第53回 全国社会福祉事業団大会にて生活支援グループ 喜寿棟の取り組み
「長年の総合失調症を経て」～ご本人とご家族の希望を叶える為に～の実務研究論文が優秀賞を頂き、発表させていただきました。

キノピー来園

平姓30年の7月に、桐生市のゆるキャラ「キノピー」が来園してくれ、利用者様と触れ合いました。



外国人実習生受け入れ

令和2年の納涼祭にて、外国人技能実習生による弾き語りで、盛り上がりました。

令和3年5月に面会室建築

コロナ禍により直接面会が出来にくい状況下となる中で、面会室が出来た事により、安心してご家族との時間（15分程度）が取れるようになりました。



6 群馬県立障害者リハビリテーションセンター

(略称：リハビリセンター)



(1) 施設長からのコメント



所長
奥寺 淳子

この10年で、当センターは大きく変わりました。施設の老朽化と県立施設としての役割の変化を踏まえ、平成25年度に県において再編整備基本計画が策定され、段階的に、新棟（現南棟）の建設、旧棟（現北棟）の大規模改修、役目を終えた建物の解体撤去、外来者及び職員用駐車場や屋外訓練場等の整備が行われ、令和4年3月に完成しました。この間に、就労支援部は、県の事業は廃止となり、法人で開設したグループホーム「まるべりー」と通所系サービス「めーぷる」に引き継ぎ、地域移行を果たしました。

新棟では、医療的ケアが必要な難病の方に対応した個室が整えられ、新たに開始した高次脳機能障害の方の社会参加に向けた事業では身体障害を持たない方も利用できるようになりました。屋外訓練場は、旧棟側に取り残されたので撤去し、新棟の自立訓練室に隣接して新たに造設されました。旧棟では、カーテンで仕切られた4人部屋から新棟と同様の間仕切り壁で仕切られた2人部屋に改修になりました。

支援内容も、生活支援部と自立支援部の統合による夜間の支援の一体化、少人数ケア実現のための3寮から6寮への編成変更、個浴の実施、同性介助の実施など、変化しました。

ご利用者のご意見も随所に取り入れてきました。例えば、寮名「すずらん」・「ひまわり」は、6寮編成への過渡期にご利用者と職員が自主的に付けた愛称が正式名称になりました。大浴場もご利用者の要望で残すことになりました。

次の10年でどう変わっていくのでしょうか？今後もご利用者の皆様と一緒にワイワイ・ワクワク過ごしていけるよう努めてまいります。

(2) 施設概要

■ 所在地

〒372-0001 伊勢崎市波志江町3030-1
TEL：0270-24-2678 FAX：0270-23-4988

① 運営方針

ご利用ができるかぎり自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、利用者本位のサービスに努め、指定管理者として県担当課と連携のもと、次の方針で事業を運営します。

- 1 ご利用者が「納得」するサービスを提供し、「魅力ある施設」を目指します。
- 2 県立施設としての役割を一層発揮し、「障害者支援の拠点」を目指します。
- 3 民間法人としての柔軟性・機動性を発揮し、効率的かつ効果的な経営に努めます。
- 4 職員一人ひとりが自己研鑽に励み、資質向上と専門性の向上に努めます。

② 事業内容

生活介護	定員 120名	+施設入所支援
短期入所	定員 12名	
自立訓練（機能訓練）	定員 20名	+施設入所支援
自立訓練（生活訓練）	定員 10名	

附属診療所 内科・整形外科・精神科・リハビリテーション科・薬局

③ 組織体制図（令和4年4月1日現在）

所長（1） 副所長（1）

- ├── 総務部（総務課・栄養課）（18）
- ├── 医療健康部（医療健康課）（38）
- ├── 生活支援部（生活支援課・自立支援課）（58）
- └── 附属診療所

④ 土地建物の状況

土地 38,312.03㎡
建物 鉄筋コンクリート造平屋建（延床面積8,000.77㎡）

10年を振り返って浮かんだ言葉は「感謝」という言葉です。長く勤めさせていただいた日々の中では元気でいられないときもありました。そんな時、職場の仲間や利用者みなさんからの温かい言葉や笑顔に助けられ、今日までくることができました。本当にありがとうございます。感謝の気持ちを持って、これからも頑張りたいと思います。

医療健康課 看護師 菅野 敦子

平成23年 事業団に入職しました。医療機関からの転職で、地域の事業所の働き方に当初戸惑った記憶があります。勤めてからは、特養のリハの開設や当センター生活訓練の開設に携わりました。その経験から、新たに事業を起こすうえで大切なのは、周囲の理解と協力はもちろん、課内だけの問題でなく組織全体として団結しなければ継続は難しいということでした。

自立支援課 生活支援員 高橋 洋輔

(3) 年間主要行事

6月…運動会

8月…残暑払い



10月…秋まつり
社会見学旅行



11月…文化祭



12月…もちつき大会



(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕



平成27年

センターの再編整備として、新棟（南棟）の建設工事が始まりました。

当センターは昭和50年にオープンした施設で、40年を経過し老朽化が進んでご利用者の生活環境の改善が必要でした。今までは4人部屋でしたが、2人部屋（一部個室）に改善されます。

平成29年

新棟が完成しました。新棟は、医療的ケアが必要な重度障害者や高次脳機能障害者の支援、福祉マンパワーの育成など、県立施設としての役割を果たすとともに、ご利用者の生活を維持・向上させていく上で必要な施設・設備を整えたものとなっています。

一方、就労支援部（就労系障害福祉サービス）については、平成29年度末で幕を下ろしました。

附属診療所では、レントゲン撮影装置、超音波診断装置が更新され、より使いやすく、精度も高い検査が可能になりました。





平成31年

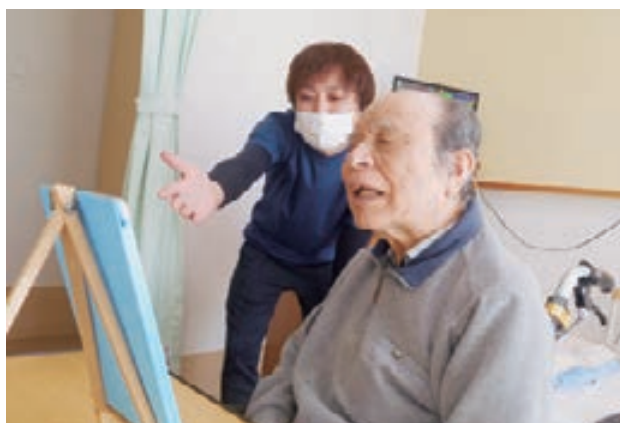
北棟の改修工事が完了しました。

主な改修の一つとして、4人部屋を2人部屋にした居室は、南棟と同様の間仕切り壁で仕切られています。洗面台、エアコンがお一人ずつ設置され、ロッカーの鍵付き引き出しは2個、間仕切り壁にはマグネットやS字フックでご自身の作品などを飾ることができます。大浴室もリニューアルし、機械浴、新設の二種類の個浴の中から選んでいただけます。

令和2年

新型コロナウイルス感染防止対策として、オンライン面会を導入しました。

ご家族・関係者の皆様の協力のもと、環境整備と健康管理を行い安心して面会ができるよう支援を行っています。



オンライン行事（ビンゴ大会）を行いました。

入所・通所のご利用者が接触を持たないように、離れた場所をオンライン会議システムでつなぎ、入所・通所のご利用者合同で実施しました。スクリーンやテレビにお互いの様子を映し出して同時に進行しました。久しぶりにお互いの様子も見られて、初のオンライン行事は好評でした。



令和3年

東京2020パラリンピックに医療ボランティアとして、副所長 増田医師が参加しました。東京体育館で開催されたパラ卓球競技に選手用医師として5日間従事しました。



令和4年

外構工事が完了し、再編整備基本計画も完了となりました。

屋外訓練場は、自立訓練室に隣接して再整備され、4月から使用開始となりました。また、訓練や散歩のコースになるように、構内を周回できる遊歩道も整備しました。

さらに、60人程度収容できる研修室の利用のための広い外来駐車場や職員駐車場を整備しました。



7 障がい者支援センターまるべりー

(略称：まるべりー)



(1) 施設長からのコメント



所長
亀井 伸 明

障がい者支援センターまるべりーは、障害者リハビリテーションセンターの利用者の地域移行の受け皿として、平成27年に当事業団が設置した施設であり、定員20名の共同生活援助事業（グループホーム）及び一般相談支援事業、特定相談支援事業を行っています。また、平成30年には、障害者リハビリテーションセンターにおける県の事業としての就労支援事業が廃止されたことに伴い、「就労支援事業所めーぷる」を併設しました。

身体障害者が利用できるグループホーム、就労支援事業所として、利用者一人ひとりが地域の住民として自立した生活を送れるよう、また、働きがいのある人間らしい仕事が継続できるよう、サービスの質の向上に努めています。就労部門では施設外就労として日常清掃作業及び介護補助事業、また相談では、伊勢崎市障害者基幹相談支援センター内に従たる事業所を設置しています。

全体で、利用者40名余り、職員約30名が毎日やり甲斐を持って一生懸命に働いてくれています。私自身は、グループホーム建設時に深く関わり、土地探し、建物建設協議等懐かしくもあり、こうして今ここで働いている事に感謝しています。私も同区内に居住しており、今後（退職後）も地域の大切な施設として見守り、地域の一員として関わっていければと思っています。

(2) 施設概要

■ 所在地

障がい者支援センターまるべりー

〒372-0804 群馬県伊勢崎市稲荷町697-1 TEL・FAX：0270-27-4329

就労支援事業所めーぶる

〒372-0804 群馬県伊勢崎市稲荷町697-5 TEL：0270-27-4081 FAX：0270-27-4082

① 運営方針

障がい者支援センターまるべりーでは、グループホーム・相談支援事業所・就労支援事業所の3つの事業を通して、障がいをもった方一人ひとりの意思を尊重しながら自己実現のプロセスの支援を行います。

(住まい) 利用者が有する能力に応じ、利用者本位の自立した地域生活が営めるよう支援します。

(相談) 障がいの有無に関わらず住み慣れた地域で安心・安全に過ごすために、困りごとや悩みごとを気軽に話せる相談所を目指します。

(仕事) ディーセントワーク（働きたいのある人間らしい仕事）を継続的に提供できる就労環境の整備を目指します。

② 事業内容

共同生活援助（グループホーム） 定員20名

相談支援事業所

計画相談支援・障害児相談支援・地域移行支援・地域定着支援

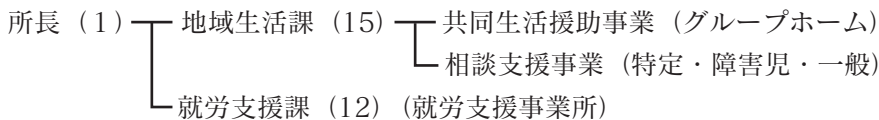
就労支援事業所めーぶる

就労継続支援B型 定員34名

就労移行支援 定員6名

就労定着支援

③ 組織体制図（令和4年4月1日現在）



④ 土地建物の状況

障がい者支援センターまるべりー

土地 1,925.55㎡ 建物 木造・平屋建（2棟）（延床面積706.42㎡）

就労支援事業所めーぶる

土地 398.01㎡ 建物 軽量鉄骨造・平屋建（3棟）（延床面積159.67㎡）

まるべりーでは、グループホームの職員は同じ町内の住民から多く採用しています。めーぶるも伊勢崎市内からの通所利用者がほとんどで、地域に必要なとされる施設作りを目指しています。利用者の生活や就労支援、相談業務は困難に直面することもあります。スタッフの仲間と協力し支え合いながら、より良いサービスを提供していきます。

地域生活課 生活支援員 大崎 稔

(3) 年間主要行事

[グループホーム]



【5月】地域清掃に参加。ゴミを拾い綺麗にします。



【7月】地域の方を招いて納涼会。一緒に玉村花火を観ました。



【10月】秋のミニ旅行。華蔵寺公園で童心に返りました。



【12月】クリスマス会では生演奏を楽しみました。

[就労支援事業所]



【4月】歩行訓練を兼ねた花見。季節の花を楽しみました。



【6月】感染対策の勉強会。清潔について学びます。



【8月】花と緑のクリーン作戦。屋外作業も頑張ります。



【9月】脇目も振らず組立作業に集中しています。

(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕

- ◎相談支援事業 平成24年12月1日指定
- ◎共同生活援助事業 平成27年4月1日指定 グループホーム設立
主たる障害が身体のため車椅子の方でも移動しやすいよう、広い設計となっています。



浴室：バリアフリーの浴室が各館に2箇所



トイレ：広いスペースのトイレが各館3箇所



居室：手前左に洗面台、右に押入があります



洗濯室：全自動、ドラム式、各館に1箇所

- ◎就労支援事業 昭和50年1月県立身体障害者リハビリテーションセンター授産部・平成23年4月県立障害者リハビリテーションセンター就労支援部を経て平成30年4月就労支援事業所めーぷるを設立。「指定就労移行支援」「指定就労継続支援B型」平成30年10月「指定就労定着支援」平成30年7月1日就労支援新事業所移転に伴う住所変更及び新サービスを開始。



平成30年7月3日上毛新聞に掲載



情報（名刺・封筒・チラシ・製本等）



組立（袋詰め・段ボール折り等の軽作業）



施設外就労（日常清掃）

8 館林市障がい者総合支援センター

(略称：館林センター)



(1) 施設長からのコメント



所長
八木 克 昭

当センターは、平成26年4月1日付けで館林市から指定管理事業者として指定されて以来、館林市障がい者総合支援センターの管理運営及び各事業（在宅重度心身障がい者等デイサービス事業、地域活動支援センター事業、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、相談支援事業の5事業）を実施しており、今年で指定管理2期（通算9年目）となっています。

平成26年7月15日から現在地での事業開始となりましたが、“実りの沼”多々良沼のほとりに位置し、静けさと緑多き環境は当センターを利用する人たちにとっては、心に安らぎと潤いを与えてくれるものとなっています。

現在、2歳から70歳代までの幅広い年齢層の方々が、個々の障がい特性に応じた各事業に分かれて通所利用されています。また、在宅で障害のあるお子さんから高齢の方々への相談支援も実施しております。これほど多岐にわたる支援を提供する事業所は、県内でも大変珍しいでしょう。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、当センターを利用される方々へのサービス内容も限られてしまいましたが、笑顔で過ごせる時間を少しでも長く生み出せるよう職員一同努力しております。



(2) 施設概要

■ 所在地

〒374-0055 館林市成島町1565番地
TEL：0276-61-3900 FAX：0276-61-3901

① 運営方針

障害をもつ子どもから大人まで、その有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は、社会生活ができるよう、利用者一人ひとりの心身の状況、その置かれている環境などに応じて、適切なサービスの提供を目指します。また、地域社会との交流を積極的に図り、障がい者福祉の理解と啓発に努めるとともに、誰もが気軽にいつでも相談できる障がい児者の地域生活の拠点を目指します。

② 事業内容

重度心身障がい者等デイサービス事業	定員10名
地域活動支援センター	定員20名
障がい児通園事業すくすく	
・ 児童発達支援事業	定員10名
・ 放課後等デイサービス事業	定員10名
相談支援事業にここに	

③ 組織体制図（令和4年4月1日現在）

所長（1）—— 支援グループ（32）

④ 土地建物の状況

土地 敷地面積 7,526.80㎡
建物 鉄骨造・平屋建（延床面積1,340.74㎡）

平成26年度の開所時より館林勤務となり、日本遺産「里沼」のひとつ、「多々良沼」を背景に、野鳥の声を聞きながら、日々業務に従事しています。センターでは、幅広い年齢層の利用者と楽しく交流し、元気もらっています。自然豊かな場所で、これからの新しい出会いを楽しみにしています。

支援グループ 生活相談員 牛久 純一

平成26年度より館林に勤務し、野生の狸やキジに出会い、未就学児と多々良沼周辺を散歩していると色々な草花や野鳥の鳴き声を聞いて自然を満喫しています。そしてセンターは未就学児も利用しているので、日々の業務に疲れても小さな子どもの可愛い笑顔に癒やされています。

支援グループ 介護員 大野 昭恵

(3) 年間主要行事

4月…お花見会

7月…七夕

8月…ミ二縁日



11月…秋祭り

12月…クリスマス会



1月…初詣
餅つき大会

2月…節分

3月…修了式



(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕



平成26年 「開所式」

館林市障害者総合支援センターの開所日です。この日は市議会議員や、市長・区長等多くの方がご出席され、開所式が行われました。

平成27年～「秋まつり」

利用者ご家族、地域の方々との交流を目的に「秋まつり」が開催されました。

職員による模擬店展開の他にも、地元地区で活動中の団体や関係団体ご協力のもとダンスや八木節、園児による歌など大盛況となりました。以降、毎年恒例行事として「秋まつり」が実施されております。



平成28年～ 「餅つき大会」

この年より、年明けにセンター内で餅つきが開催されました。利用者、職員が力一杯餅をつき大盛況となります。

実際についた餅は、調理後に美味しくいただきます。

9 群馬県立点字図書館

(略称：点字図書館)



(1) 施設長からのコメント



館長
細川 智子

点字図書館は法人設立の翌年昭和48年に開館し、視覚障害者の皆さまの「読書権」と「知る権利」を保障する情報提供を行い、自立と社会参加の支援を行ってきました。

この50年の時の流れは、点字図書館にさまざまな変化をもたらしました。情報機器が変化し、製作方法も貸出媒体も蔵書管理システムも変わりました。デジタル化の伸展により、現在はご利用者がインターネットから直接利用できるようになってきています。

点字図書館を取り巻く環境は変わりましたが、その中で開設当初から変わらないものがあります。それは音訳・点訳図書資料の製作を担う、多くの奉仕員さんの存在です。その活動は、約1年の養成講座から始まり、資料製作作業では多くの時間と根気を要します。点字図書館の資料の充実は、精力的に活動される奉仕員の皆さまに長年支えられてきました。奉仕員の皆さまをはじめ、これまでの館運営を支えてくださった多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。

点字図書館が利用対象とする視覚障害者数は減少傾向が続いていますが、近年の変化として、著作権法改正や読書バリアフリー法の施行による対象の拡大があげられます。視覚障害者の皆さまにはより幅広い情報提供を目指すと共に、対象拡大への対応も関係機関・団体と連携し、模索したいと思います。

次の10年を、より多くの方に身近に利用していただける点字図書館を目指し、法人50年の節目を新たなスタートとして、職員一同業務にあたって参ります。



(2) 施設概要

■ 所在地

〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町13-12 群馬県社会福祉総合センター3階
TEL: 027-255-6567 FAX: 027-280-4103

① 運営方針

身体障害者福祉法第5条の規定に基づく、視覚障害者情報提供施設として、視覚障害者の知識及び福祉の増進を図るため、点字・録音図書等の各種情報を製作・提供し、社会的自立と社会参加への支援を行っています。

② 事業内容

- (1) 点字図書・録音図書の収集、製作、貸出及び閲覧
- (2) 点訳奉仕員・音訳奉仕員の養成指導
- (3) 利用奨励、相談、及びプライベートサービス
- (4) その他、視覚障害者情報提供施設としての目的を達成するための業務

③ 組織体制図（令和4年4月1日現在）

館長（1）—— 奉仕グループ（6）

④ 土地建物の状況

使用面積 312.98㎡（群馬県社会福祉総合センター内）

点字図書館は、我々視覚障害者にとって、生活に必要な各種情報の収集に欠かせない施設としてお世話になっています。点字・録音図書の作成には、館長様をはじめ、職員及びボランティアの皆様には大変ご苦勞をおかけしておりますが、今後ともよろしく願いいたします。

群馬県視覚障害者福祉協会
会長 茂木 勤

失明し不安の中で点字図書館に出会い、わくわくしたのは30年前。見えなくてもこんなすばらしい贈り物がやってきて、今日まで、恩恵にひたっております。点字の童話もよめるようになりました。今は、点字用紙の耳をいただいて、ベル作りをしながらシネマデージーを聴くのが至福の時です。皆様に感謝しております。

利用者 小井土 芳枝 様

(3) 年間主要行事

5月～翌年2月

「奉仕員養成講座」

当館の蔵書を製作する点訳奉仕員・音訳奉仕員を育てる講座を毎年実施しています。



8月

「まゆだまネットフェスタ」

群馬県視覚障害者等支援ネットワーク“まゆだまネット”に加盟する団体が連携して行う相談や体験のできるイベントです。視覚に障害のある方、視覚から情報を取り入れることに困難のある方、また広く一般の方にも参加していただける催しです。

10月

音声解説付きDVD映画会、点字付きかるた体験会、スマホ体験会、ピアサポート、訪問による他団体への貸出などを行っています。

見ることに不自由のある方への様々な情報提供に関する催し物を行っています。



2月

「点訳・音訳奉仕員研修会」

活動に入った後も、研鑽の機会として年に一度、研修会を行っています。外部より講師を招きスキルアップを図ると共に、ボランティア間の情報交換などに活用されています。県内の市町村で活動している点訳・音訳グループなどにも開かれた研修会です。

(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕

【新たな取り組み】

平成26年度～

○テキストデイジー

文字データをデイジー化したものです。拡大したり、ページや見出しで飛んだりすることができます。平成26年度から製作が始まり現在540タイトルのコンテンツがあります。



平成27年度～

○シネマデイジー

シネマデイジーとは映画の音声に登場人物の表情や動作、画面の様子を説明する音声解説を付けてデイジー編集した録音図書です。映像はありませんがラジオドラマのように映画を楽しむことができます。現在9名の奉仕員により製作が進められています。

【新たな媒体】

○L点字

平成27年にL点字プリンターを導入しました。L点字とは、通常の点字よりも点の大きさが大きく、点と点の間も大きくした点字のことです。点字触読初心者には、通常の点字よりも判読しやすいと言われています。



○マルチメディアデイジー

平成27年度から厚生労働省から委託された図書の受入が始まりました。テキストなど画面と音声同期して流れる図書です。

平成29年～

○OSDカード

平成29年、デイジー録音図書が複数タイトル入った「ぐんてんパック」貸出を開始しました。群点製作パックはもちろん、シネマデイジーパック、本屋大賞パックなどが人気です。



【その他】

- ・音声版選挙公報製作
- ・Zoomでの研修、イベント
- ・合成音声デイジー など



10 群馬県立義肢製作所

(略称：義肢製作所)



(1) 副所長からのコメント



副所長

小林 希一郎

群馬県立義肢製作所は昭和26年に群馬県義肢製作所という名前で、陸軍衛生材料廠というところで傷痍軍人の方々の恩賜の義足などを作っていた技術者が、群馬県へやってきて始まったと聞いています。私が補装具を製作するようになった昭和58年当時は、今ではほとんど見られなくなった殻構造タイプの義足がまだまだ製作されていて、一枚のアルミ板を叩き丸めて加工をする作業の音が室内にガンガンと響いていました。

平成10年2月には社会福祉総合センターへ移転となり、その引越では工作機械の搬送準備や、補装具の原材料などを搬送するための梱包作業が大変でした。なかでも引越しの際に材料加工用の電気オーブンが大きすぎて総合センターのエレベーターに入らず、外からクレーンで吊り下げて入れたことが印象に残っています。

群馬県立義肢製作所は今まで幾度かの組織替えを経て、現在もこうして次の世代の技術者に引き継がれています。当時とは比べものにならない製作技術の進歩と、新しく重度障害者用意思伝達装置の業務も増えていますが、現在も変わることなく補装具を必要とされるかたがたのお役に立っている感激と、あれから40年の時を経て当時若手だった私も再雇用となり、群馬県立義肢製作所の更なる使命を思いつつ、若い職員の姿にかつての自分を重ねながら働かせていただいている毎日です。

(2) 施設概要

■ 所在地

〒371-0843 前橋市新前橋町13-12 群馬県社会福祉総合センター2階
TEL：027-255-6853 FAX：027-255-6854

①運営方針

身体に障害のある方の福祉の向上と地域社会における自立生活を支援するため、低額な料金で義肢装具の製作、修理及び貸与を行い、もって在宅福祉サービスの充実を図り、併せてセーフティーネット機能の十全な発揮に努め、身体障害者福祉法に定められた補装具制作施設としての本来的な役割を担うことで、障害者福祉サービスの一層の増進に寄与します。そして、障害の有無にかかわらず、誰もが住みやすい社会を目指し、実現のための努力を続けていきます。

②事業内容

- (1) 身体障害者の補装具の製作及び修理に関する業務
- (2) 身体障害者の補装具に関する相談及び指導に関する業務
- (3) その他義肢製作所の設置の目的を達成するために必要な業務

③組織体制図（令和4年4月1日現在）

所長（1）—— 副所長（1）———— 製作グループ（5）
（兼務）

④土地建物の状況

使用面積 228.70㎡（群馬県社会福祉総合センター内）

私は、指先しか動かせません。

意思伝達装置を操作するため成長と症状に合わせて県立義肢さんがスイッチを考えてくれました。

指一本で、電動車椅子を運転できるのも県立義肢さんのおかげです。県立義肢さんが家に来てくれる日が楽しみでした。今は、分身ロボットで前橋のオムライス屋で店員をしています。

私の夢は料理人。オムライスをつくることです。

いつか、県立義肢さんに食べに来て欲しいです。

重度障害者用意思伝達装置利用者 萩原 やよい 様



(3) 業務風景

補装具製作

「補装具」や頭部保護帽などの「日常生活用具」を多岐にわたって取り扱っています。

義手、義足

上肢装具、体幹装具、下肢装具
オーダーメイド車いす
視覚障害者安全つえ（白杖）
重度障害者用意思伝達装置など



コミュニケーション支援

難病などで会話や、筆談などのコミュニケーションを取ることが難しい方には、「携帯用会話補助装置」や、「重度障害者用意思伝達装置」を頬、指、視線などわずかにでも動かせる身体機能を使用して操作できるようにするなど、コミュニケーションを円滑に行う為の支援を行っています。

各種研修会開催

群馬県心身障害者福祉センター主催による「市町村補装具業務担当新任職員研修会」において義肢、装具、重度障害者用意思伝達装置などの体験や説明を行いました。



「コミュニケーション支援研修会」では意思伝達装置開発メーカーを講師に招き、最新機器の使い方などの研修を行いました。

そのほかにも義肢装具メーカーの部品等の研修会も開催しています。



(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕



障害者スポーツ用装具製作

東京パラリンピックに向けて前橋市に滞在していた南スーダンのマイケル選手に対して、陸上競技用の上肢装具の製作を行いました。

分身ロボット オリヒメ体験利用事業

病気などにより外出が困難な方に対して自宅に居ても自分の分身ロボットを通して外出を楽しみ、仕事をするなど様々な社会参加の可能性を探るため、「群馬DX加速化プログラム デジタル技術を活用した障害者の社会参画促進事業OriHimeロボット体験利用事業」を行いました。



障害者eスポーツ支援

群馬県障害者スポーツ協会や、群馬県eスポーツ連合（gespo）などと協力し、意思伝達装置に使用されるスイッチなどを用いて、支援を行いました。

将来的には障害者eスポーツ競技大会の実現に向けて協力していきます。

11 群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ

(略称：コミュニケーションプラザ)



(1) 館長からのコメント



館長
黒岩隆治

群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ（コミプラ）は、平成10年2月、群馬県社会福祉総合センターの開設と同時に、同センター3階に開設されました。

開設当初から当事業団で管理運営を県から受託し、平成18年からは指定管理者として現在まで、コミプラの適正かつ円滑な運営に努めて参りました。

この10年を振り返りますと、平成27年4月に手話が言語であるとの認識のもと、手話の普及等に関する理念や政策の推進に必要な事項を定めた「群馬県手話言語条例」が制定されました。翌28年には同条例の趣旨に基づき「群馬県手話施策実施計画」が策定され、さらに平成31年には、「群馬県障害を理由とする差別の解消の推進に関する条例」が施行されました。また、令和4年5月には、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が施行されるなど、聴覚障害者を取り巻く環境は大きく変化しはじめました。

こうしたことから、県内唯一の聴覚障害者情報提供施設であるコミプラの役割は、これまで以上に重要なものとなっています。

今後も、聴覚障害者のコミュニケーションを支援し、自立と社会参加の促進を図ることを基本に、指定管理者共同体である群馬県聴覚障害者連盟と連携協力し、利用者サービスの向上を心がけ、県民から信頼される施設の管理運営に努めて参ります。



(2) 施設概要

■ 所在地

〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町13-12 群馬県社会福祉総合センター3階
TEL：027-255-6633 FAX：027-255-6634

① 運営方針

コミュニケーションプラザが目指すもの

一 地域生活を支援する拠点を目指して 一

社会福祉事業団と群馬県聴覚障害者連盟が共同で運営しています。利用者の皆様のご意見やご要望を取り入れた運営を目指します。

聴覚障害者の「聞く権利」「話す権利」を保障し、自立と社会参加を支援します。

利用者の方々のプライバシーに充分、配慮します。

聴覚障害者の皆さんが生活している市町村の福祉担当課などと連絡を取り合い、地域での社会生活を支援します。

② 事業内容

県内唯一の聴覚障害者情報提供施設としての自覚を持ち、聴覚障害者専門施設として、県聴覚障害者連盟との共同運営により機能の一層の充実に努めてきました。

また、市町村コミュニケーション支援事業を始め市町村事業へ様々な提案をすることで地域活力の向上を目指すと共に、障害者関連法案の改正による社会的な要請に貢献できるサービス提供を目指した事業を実施しています。

③ 組織体制図（令和4年4月1日現在）

館長（1）—— 支援グループ（7）

④ 土地建物の状況

使用面積 425.39㎡（群馬県社会福祉総合センター内）

コミプラに感謝

コミプラの一番有難いところは、職員がいつも優しく接してくれ、気軽に話を聞いてもらえることです。お陰で多くの交流や情報を得て、失聴後の支えになっています。

手話の会では、様々な支援を頂き楽しく続けています。感謝です。

きさらぎ会 福井 眞江

私たちの会は、テレビ番組をDVD化したものにコミプラの設備で、字幕を入れる作業を行っています。

私もこの作業を始めて20年になりますが、この間コミプラの設備も当初はVHSテープの機器から現在の機器まで三世代の機器を経験してきました。

何れにしても、コミプラの設備にはお世話になりますので今後もよろしく願います。

字幕サークル・紙縞の会 山崎 興一

(3) 年間主要行事

4月…手話通訳者と要約筆記者の 養成講座と登録者研修

年間通じて行います。

4月…字幕ボランティア研修

コミプラのライブラリーを充実させるため、活動しています。

5月…聴覚障害のための コミュニケーション講座

手話のできない耳の不自由な方や、その家族を対象に、手話による初歩的な日常生活を覚えて頂き手話を習うきっかけ作りとなるよう実施しています。



10月…群馬県手話普及啓発推進イベント

県民の皆さまが、手話に触れて、親しみを持っていただくため、実施しています。

11月…聴覚障害者のための啓発講座

聞こえにくいことへの理解と、スムーズなコミュニケーション方法を学ぶため、実施しています。



1月…字幕入り映画の上映会

主に聴覚障害者を対象とした字幕入り映画の上映会です。

毎年、たくさんの方がご鑑賞しています。



(4) 10年間の歩み〔平成25(2013)年～令和4(2022)年〕



平成25年

群馬県立聾学校に毎月1回、生徒とその保護者や、先生を対象に、DVDの貸出をする「移動ライブラリー」が始まりました。現在も続けています。

平成29年

～手話の世界に触れてみませんか～

平成29年度手話普及啓発推進イベントを開催しました。

このイベントは、平成27年度に群馬県手話言語条例が制定された記念に開催された記念フォーラムがきっかけです。

地域の商業施設を会場にし、買い物客等、普段手話に触れる事が少ない方を対象に、手話に触れて親しみを持っていただくことを目的として実施しました。

内容は、手話ソング「大きな古時計」「キセキ」、ミニ手話教室、個別手話指導を行い、大変盛り上がりました。午前、午後と合わせて4回の実施となりましたが、当日は小学生から高校生そしてベビーカーを押した親御さんなどを中心に約530名にご来場頂きました。「子供たちに手話を特別なものと思わないで身近に感じて欲しい。」「またイベントをして欲しい」などの感想を頂きました。



令和3年

字幕入り映画の上映会を開催しました。

事業団40周年記念として、字幕入り映画の上映をしたのがきっかけです。それから10年間、毎年、字幕入り映画の上映会を開催しています。開催場所も群馬県各地（安中、大泉、桐生、渋川、高崎、館林、富岡、沼田、前橋、みどり等）で上映してきました。

上映映画は「アイ・ラブ・ユー」「青い山脈」「伊豆の踊り子」「北のカナリアたち」「小早川家の秋」「幸福の黄色いハンカチ」「手話で生きる」「名もなく貧しく美しく」「獄（ひとや）に咲く花」「劔岳 点の記」などを上映しました。



12 群馬県立ふれあいスポーツプラザ

(略称：ふれあいプラザ)



(1) 館長からのコメント



館長
延 命 敏 勝

50年の歴史を刻む群馬県社会福祉事業団にあって、群馬県からの管理委託を受ける形で発足した「群馬県立ふれあいスポーツプラザ」は、令和3年7月に30周年を迎えました。

当館は、「障害者及び高齢者のスポーツ及びレクリエーション活動の振興」を設置目的としていますが、近年は「障害者スポーツの振興」に軸足を移し、2029年に本県で46年ぶりに開催される全国障害者スポーツ大会に向けて、「障害者スポーツの拠点」を目指し、再出発しようとしています。

当館にとって、この2年間は「非日常」の連続でした。コロナ禍で繰り返される休館や相次ぐ事業の中止により、利用者は激減しました。

一方で、東京2020パラリンピック陸上競技5000m銀メダリストの唐澤剣也選手を招いての子供たちとの交流会の開催や、ホームページ上での30周年記念動画の配信など、新しい試みにもチャレンジしています。

障害者や高齢者のみなさまが、スポーツに親しむ「日常」を取り戻していただけるよう、そして、人と人がスポーツを通じて交流し繋がる「新しいふれあいの形」を目指して、職員一同、気持ちを新たに努めてまいります。

(2) 施設概要

■ 所在地

〒379-2214 群馬県伊勢崎市下触町238-3

TEL：0270-62-9000 FAX：0270-62-8867

① 運営方針

群馬県立ふれあいスポーツプラザは「スポーツ県群馬」宣言（昭和51年）を契機として、当時の一億総健康志向の時代の中、障害者及び高齢者の方々がお互いに「ふれあい」「楽しみ」ながら利用できる施設をめざし、障害者及び高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の振興、並びに社会参加の促進を図るためのスポーツ・レクリエーションの場を提供し、福祉の増進に寄与する目的で設置されたものです。

② 事業内容

障害者及び高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の振興を図り、社会参加を促進するため、スポーツ・レクリエーションの場を提供するとともに、各種の大会、教室、講座を開催しています。

また、「体力づくり」「医事、健康」「リハビリ」等の各種相談事業を実施し、利用者の健康志向へのニーズに対応するとともに、障がい者スポーツ指導員養成講習会、ボランティア講習会等を開催し、障害者及び高齢者へのスポーツ・レクリエーション活動に対する技術、知識養成の推進を図っています。

③ 組織体制図（令和4年4月1日現在）

館長（1）— 副館長（1）— 管理指導グループ（20）

④ 土地建物の状況

土地 46,412㎡

建物 鉄筋コンクリート2階建（一部3階建）（延床面積4,252.82㎡）



ふれあいスポーツプラザを利用して十年以上が経ちます。主に水泳に関わってきました。

アスリート水泳教室のボランティアとして、そして記録会やふれあい祭など、たくさんの活動に参加してきました。

スポーツを通しての出会いや喜び、生きがいなどがこれからもプラザで広がっていくことを楽しみに活動をしていきたいと思っています。

利用者 尾高 広蔵 様



ふれあいスポーツプラザは私にとって最高の施設であります。41歳にて右股関節自己骨の手術後、右股関節を人工骨で補助し、3回の股関節術

後のケアを送っています。しかし、私にとってはプラザの皆様方のご支援とご協力を得て週2回プール歩行のリハビリに励んでおります。今後も職員の方々に感謝しつつ続行したいと思います。

利用者 栗原 留里子 様

(3) 年間主要行事



平成 27 年度 テニス教室



平成 26 年度
ゴールデンウィークイベント

～春～



令和元年度水泳教室・春



平成 26 年度
季節のアウトドア体験 (夏季)



平成 30 年度
スマイルボウリング交流会

～夏～



平成 26 年度
ラフターヨガ体験



平成 27 年度
第 24 回ふれあい祭



令和元年度
障害児運動教室

～秋～



令和元年度
陸上競技交流会



平成 28 年度
卓球大会



令和元年度
水泳記録会

～冬～



平成 25 年度
クリスマスイベント



～通年～



クリーン作戦



障害者スポーツ体験学習



健康講座



水泳ワンポイントレッスン



出前事業



アスリート教室（水泳）



アスリート教室（陸上）



アーチェリー場利用認定会



13 群馬県立ゆうあいピック記念温水プール

(略称：ゆうあいプール)



(1) 施設長からのコメント



館長
山本 隆

群馬県社会福祉事業団が創立50周年の記念すべき節目を迎えたことは、事業団の諸先輩方の努力はもとより、関係者の方々のご指導と利用者の皆様のご厚情の賜であり、深く感謝いたします。

私は、当事業団が指定管理者である、ゆうあいピック記念温水プールの館長として令和2年4月から業務を行っています。

当プールは、県が平成9年7月、障害者と高齢者のスポーツ及びレクリエーション活動の振興、スポーツを通じた社会参加の促進を図るため設置しました。開設当初から、事業団が管理運営していますが、利用者を中心とする多くのボランティアに御協力いただき、ゆうあいフェスティバルをはじめとするイベントや障害児水泳教室等の各種教室を開催するほか、地元の渋川特別支援学校の水泳授業への協力やプール近隣の美化活動を行うなど、幅広い活動を展開して参りました。

良き伝統を有する当プールですが、この2年余の間は、コロナ禍により繰り返される臨時休館や相次ぐイベント・教室の中止、プール・更衣室の人数制限や利用時間の制限をはじめとする感染防止対策を行うなど、利用者の皆様にご迷惑をおかけしています。

今後も、コロナ禍での事業運営が続きそうですが、利用者皆様にご理解いただけるよう適切な事業の実施に取り組み、微力ではありますが当事業団の一層の発展に尽力していきたいと考えています。

(2) 施設概要

■ 所在地

〒377-0006 群馬県渋川市行幸田3011

TEL : 0279-25-3033 FAX : 0279-25-3034

① 運営方針

本県で開催された全国知的障害者スポーツ大会「ゆうあいピック群馬大会」を記念して、ボランティアの協力により生じた運営費等の余剰金を活用して設置し、障害者・高齢者のスポーツを通じた社会参加とリハビリテーションの拠点施設として、障害のあるなしに関わらず、お互いの理解をより深め、共に生きる共生社会を目指して運営を行っています。

② 事業内容

障害者や高齢者が体力の向上とこころの健康づくりに対する教室や講座を開催。また、「医事・リハビリ」等の相談事業を実施しています。

③ 組織体制図（令和4年4月1日現在）

館長（1）— 管理指導グループ（13）

④ 土地建物の状況

土地 9,972㎡

建物 鉄筋コンクリート1階建（延床面積1,692㎡）

「明るく・楽しく・元気に集えるゆうあいプール」



群馬県社会福祉事業団
50周年おめでとうございます。

何時も明るく・楽しく・
元気を頂ける施設として
感謝し、利用させて頂い
ております。障害者、高

齢者、子供、全ての方が来館から職員の笑顔の挨拶で迎えられ、利用後は心も体も癒され、笑顔で足取り軽く自宅に帰ることができる施設です。施設運営には職員が利用者の健康と心が元気になるようにと日々熱意を持ち研鑽し、新規事業も数多く取り入れて頂き利用者として感謝です。

少ない職員数で、現「コロナ禍」最善の工夫と改善対応で運営に当たる職員の活力と指導に改めて感謝し、今後も利用者の健康を見守り頂き、ゆうあいプールが発展する事を祈念申し上げます。

利用者 司東 丕国 様

「プールと私 元気をありがとう！」



私は16年前に脳出血で
右半身が麻痺となり、ゆ
うあいプールをリハビリ
の場として、左アクセル
車で片道1時間15分の道
のりを通い始め、11年目
になりました。歩行訓練

をして3カ月、隣のコースに片手でスイスイと泳ぐ女性に呆然と見とれていると、職員の方が「教室に入りませんか？」と声を掛けてくれました。半信半疑のまま「背泳ぎ教室」に参加、初めてのことはかりでしたが、生徒という位置が楽しかった。教室最終日25mを目指して泳ぎ、ゴール直前「もう少し、頑張れ！」プール全員がその瞬間を見守り、到着と同時にあちこちから拍手が沸き上がる。この経験からプールがさらに楽しくなり、4年前全国障害者スポーツ大会に群馬県代表として参加させて頂きました。元気をもらい続け、私も元気を現わしていきたいです。ありがとう！

利用者 森路 節子 様

(3) 年間主要行事

群馬ヤクルト障害児(者)水中運動会



こどもの日(菖蒲湯)

5月…こどもの日

葉菖蒲は当館北斜面で栽培しています。

6月…群馬ヤクルト障害児(者)水中運動会

準備体操はヤクルトマンと一緒に「絶好腸ダンス」



ゆうあいマーメイド



歌声コーラス



手話コーラス



ゆうあいフェスティバル



9月…ゆうあいフェスティバル

楽しい企画が盛りだくさん!!
協賛企業のご協力で、無料配布コーナーは毎年長蛇の列です。

子供広場



水泳記録会





10月…群馬ヤクルト杯
ゆうあいGG大会

優勝を目指してスタート！！

10月28日 県民の日
サントリーアクア盆ダンス

みんな 輪になって上州音頭♪

12月…冬至の日 ゆず湯

い〜い香り
心も身体もポカポカです。

群馬ヤクルト杯ゆうあい GG



冬至の日 (ゆず湯)

サントリーアクア盆ダンス



新年餅つき



ゆうあい文化祭



水中上毛かるた大会



1月…お正月イベント

餅つき大会

「あんこ・きなこ・からみ餅」つきたてのお餅を皆さんに配布

水中上毛かるた大会

プールの底にも札が隠れています。

ゆうあい文化祭

2年に一度開催 力作勢ぞろいです！！

14 群馬県社会福祉総合センター

(略称：社会福祉総合センター)



(1) 施設概要

■ 所在地

〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町13-12
TEL：027-255-6000 FAX：027-255-6001

① 運営方針

- (1) 社会福祉総合センターは、社会福祉施策の総合的な推進を図り、県民が心豊かで健やかに暮らせる福祉社会の実現に寄与するための拠点となる施設です。(設置管理条例)
- (2) 社会福祉総合センターは、①ふれあい・交流、②相談・情報提供、③人材養成・確保、④民間福祉活動支援の4つの機能を持っています。これらセンターの役割を十分に発揮できるよう、ハード面、ソフト面ともに充実を図ります。

② 事業内容

- (1) 施設及び付属設備の供用
- (2) 「福祉用具・住宅モデルルーム展示場」の運営
- (3) 見学視察等の受入
- (4) 施設及び付属設備の維持管理
- (5) 入居機関及び社会福祉関係団体との連携
- (6) 共同利用印刷室の管理運営

③組織体制図（令和4年4月1日現在）

館長（1） — 副館長（1） — 庶務課（7）
（兼務） （兼務）



▲ 大ホール



▲ 会議室



▲ 福祉用具・住宅モデルルーム展示場

福祉用具・モデルルーム展示場に勤務してもうすぐ5年になろうとしています。介護保険制度、障害者支援法など日々勉強し、戸惑いながらも、学生、各県の民生委員、福祉用具を必要として来場される方に説明をしています。今後も、福祉用具業者と情報交換しながら、来場者の方によりよい情報が提供できるようにしていこうと思います。

庶務課 展示場職員 関川 健二



平成10年2月に福祉の拠点として開館した総合センター。そのときから受付に座り、今日まで、まるで定点観測の様に同じ景色を見てきました。開館当初は、人影もまばらで、閑散としていたけれど、いつの間にか多くの人が行き交う賑やかな場所へと変化しました。利用者、入居団体、もちろん本部の人とも楽しい交流をさせてもらっています。

庶務課 受付職員 町田 八重子



50周年記念事業の紹介

令和4年10月11日

リハビリセンターの文化祭の一環として花火大会を実施しました。



令和4年11月23日

点字図書館では、毎年8月に行っているまゆだまネットフェスタについて、令和4年度は10月に延期して開催しました。



令和5年1月21日

社会福祉総合センターを会場にコミュニケーションプラザ主催の字幕入り映画上映会を開催しました。



群馬県社会福祉事業団創立50周年記念誌
50年のあゆみ

(2023年3月発行)

発行／社会福祉法人 群馬県社会福祉事業団

〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町13-12

電話：027-255-6270 FAX：027-255-6721

印刷／就労支援事業所めーぷる
